

# 富士市立中央病院 病院だより

第 13 号

発行:平成23年7月20日

Proud!  
Japan

東日本大震災の復興を支援しよう

## 【Proud! Japan運動】

東日本大震災の被災地で、苦しいながらも秩序を守り助け合う被災者や救援活動を行う方々を「日本の誇り」と称え、ロゴマークを通じてエールを送ろうという運動です。

## 富士市立中央病院医療救護班、東日本大震災の被災地支援へ

富士市立中央病院は、3月11日に発生した東日本大震災の支援として、4月に災害支援ボランティアナース(看護師)を宮城県石巻市へ派遣しました。

続いて、岩手県から静岡県への継続的な医療救護支援要請による県内各市への派遣依頼を受け、当院では医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務員1名、計5名による医療救護チームを2チーム組織し、岩手県宮古市へそれぞれ5月5日～9日と5月11日～15日に派遣し、支援活動を行いました。宮古市では救護所において避難住民などの一般・慢性期医療、そして周辺の診療所などの



(避難所の小学校の様子)

巡回診療を行いました。

さらに、全国自治体病院協議会の要請を受け、6月6日～12日に宮城県気仙沼市立本吉病院で診療活動を行いました。

## 気仙沼市での活動報告

小野寺昭一院長を始め医師1名、看護師2名、事務員1名の5名は、6月6日～12日にかけて宮城県気仙沼市立本吉病院で診療の支援を行いました。

院長と事務員1名は6日～8日の滞在、医師1名と看護師2名は12日までの滞在でしたが、病院訪問の途中で震災現場を目の当たりにして、全員しばらく言葉もでない状況でした。

病院近くの川を津波が4kmも溯るなど、予想もしえない方角からの被害により、本吉地区だけで57名の尊い命が失われ、現在も88名の方が行方不明との説明を受けました。改めて、東海地震が発生した場合に中央病院はどうなるのか、と不安が胸をよぎりました。

本吉病院では震災直後は患者さんが溢れていたようですが、今では主として慢性期の患者さん(一日に60～70人)の来院となり、地域の方も病院自体も落ち着いている様子が見て取れました。

しかし外見上は落ち着いている様子でも、内面に様々な苦しみを抱え込んでいるのだというお話を伺い、家族や家を失われた方達の心痛を思うと自分達は何ができるのだろうかと自問しました。

## 被災地支援に寄せて

宮古市では今後、仮設住宅の建設を進め区域ごとに診療所を設ける計画があり、そこでの医療救護班の派遣要請が予想されます。また、気仙沼市の本吉病院は常勤の医師が不在とのことですので、継続した支援が必要になるでしょう。

今回の医療救護チームの派遣により、被災地の惨状と被災者の現状に触れて、中央病院としてでき得る限りの支援を引き続き行ってまいります。

## 宮古市での活動報告

岩手県宮古市に到着するとあまりの被災地の惨状に言葉を失い、津波の恐ろしさを改めて思い知らされました。すぐに活動拠点となる避難所の小学校へ行き、音楽室に設けられた診療所で一般診療を行い、近隣の小中学校の避難者と併せて120名ほどの方に、血圧測定などの健康管理支援を行いました。

翌日以降は宮古市の南東に位置する重茂(おもえ)半島へ赴き、半島にある診療所で診療を行いました。ここでは交通手段がなく、外出が困難で診療所へ行けない患者さんもいて、希望により往診も行いました。地震発生から2か月近く経っているということもあり、症状は大分落ち着いてきているようで、重病の方はいなかったものの、長期の避難所暮らしで血圧が高くなったり、体調を崩す方などが見受けられました。



(医療救護班のメンバー)



(本吉病院職員との集合写真)

## 看護の日

少子高齢社会を支えていくためには、「看護の心、ケアの心、助け合う心」を私たち一人ひとりが分かち合うことが必要です。こうした心を全ての人々が育むきっかけになるよう、ナイチンゲールの誕生日である5月12日が「看護の日」として制定



(血圧測定の様子)

されました。「看護の心をみんなの心に」をメインテーマに、「ずっと忘れられない看護がある」をポスター標語とし、今年も記念行事を企画して玄関ホールにて血圧

測定、看護・療養・介護の相談、介護や災害時に役立つ簡易便器の作り方の紹介などを実施しました。

当日は100名以上の方が参加して下さい、「付き添いで病院に来たが、今日は血圧を測ってもらえてよかった」「介護について不安なことを話し、聞いてもらえてよかった」「簡易便器は災害時や交通渋滞時に役立つそう」など、いろいろな声を聞かせていただきました。看護のPRをするとともに私たち看護師が自分自身を振り返る大切な日にもなりました。

私たちは、専門職としてできる限り皆様のお役に立てるように今後も努力してまいります。

## 簡易便器

阪神淡路大震災・新潟県中越地震の被災者を対象に実施したアンケートで、一番困った事に挙げられたのは、水や食料の不足ではなくトイレに関する問題でした。

今回の東日本大震災でも、使用できるトイレが少ないために食事や水の摂取を制限する方がいたり、仮設トイレが増設されても排泄物の回収ができずに使用不可となったり、トイレ内の衛生状態の悪化による感染症の発生も危惧されるなど、災害時にはトイレに関わる様々な問題が顕著となります。

東海地震が叫ばれる中、このトイレ問題を解消する一つとして、簡易便器の作り方の一例をご紹介します。なお、他にも様々な簡易トイレの作り方がインターネットなどで検索することができますので、ご一読することをお勧めします。

### …………… 作り方 ……………

- 用意するもの
  - 新聞紙：5枚
  - 紙オムツ(平板)：半分

- ①新聞紙を2～3枚ずらして重ねる。
- ②重ねたまま棒状に丸めて輪を作る。
- ③新聞紙2枚を重ねて敷き、先ほど作成した輪をその上に置き、輪の中に紙オムツを置く。
- ④下に敷いた新聞紙を輪の中に入れて込み完成となる。

※この簡易便器は燃えるゴミとして捨てることができます。



## 食中毒 (病原性大腸菌について)

今年4月、北陸地方で牛肉の生食による集団食中毒が発生しましたが、その原因は病原性大腸菌O111の感染によるものでした。

この病原性大腸菌の呼称に使われる「O」とは、大腸菌の細胞壁にある糖脂質の事で、菌体抗原とも呼ばれています。病原性大腸菌には170種類以上の菌体抗原があり、O1から始まって発見された順番に番号が付けられています。つまり、O111とは111番目に発見された菌体抗原という意味になります。

食中毒と聞いて多くの方が思い浮かべるのは、O157だと思えます。病原性大腸菌は一般的には5種類に分けられており、O157やO111は同じ腸管出血性大腸菌に入ります。なお、腸管出血性大腸菌の感染事例の実に80%はO157によるもので、O111の感染数はこの数年間



2%前後で推移しているため(国立感染症研による調査)、初めて聞くという方も多かったのではないのでしょうか。

O157やO111は型が違っただけでその特性や予防法に違いはなく、口からたった50個の菌が入っただけで感染し、胃酸の中でも生存できる生命力の強い細菌です。

感染経路は、生の牛肉やレバーの摂食によるものが多いと言われており、症状としては下痢・激しい腹痛・頻回の水様便・著しい血便などがあり、重篤な合併症を起こし死に至る場合もあります。また、感染力が非常に強いため人から人への二次感染も多く、発症すると大きな被害に繋がりがかねません。

このように恐ろしい病原性大腸菌ですが熱に弱いので、加熱できる食品は十分に加熱し、殺菌することが一番の対策です。ご家庭でも注意して食中毒の予防に心がけ、おかしいと思ったら病院で診察を受け適切な処理を行ってください。



## 感染対策専任ナース誕生

感染対策専任看護師(東京医療保健大学大学院感染制御実践看護学講座終了)の増田満伯です。



増田満伯  
(感染対策専任看護師 増田満伯)

私は看護部に所属していますが、感染対策専任者として院内の全部署に対し組織横断的に活動しています。感染の危険を最小限にし、病院に関わる全ての人々を感染から守ることが目的です。具体的な活動として、病院感染サーベイランス(監視)、感染に関する教育・相談、

院内巡視と整備、感染症情報の提供などを行っています。

また、感染制御チーム(ICT)の一員として、医師、臨床検査技師、薬剤師などと協同し、院内感染発症時の対応と対策にあたっています。専任であるためタイムリーに活動できることが、感染対策上非常に有効であり、やりがいを持って感染対策活動に取り組んでいます。いずれは、当院のみならず地域全体の感染対策が向上し、安全な医療の場の提供につながるような支援や活動を実施していきたいと思っています。

なお、「出前講座」の～家庭でできる感染予防～では感染防止の基礎知識と技術を解説していますので、ぜひともお申し込みください。(6面「出前講座の紹介」参照)



## 助産ケアルーム開設

平成23年5月9日より産婦人科外来において、助産ケアルーム(助産師による外来)が開設されました。これまでは医師の妊婦健診のみでしたが、助産ケアルームでは妊娠中期に助産師が妊婦健診と保健指導を1回行ない、妊娠後期には保健指導を行なっています。当院はリスクが高い妊婦の受診も多いため、助産師が行う妊娠中期の妊婦健診はリスクの低い妊婦を対象としています。しかし、リスクが高い妊婦ほど保健指導が重要であるため、医師の妊婦健診後にすべての妊婦が助産ケアルームでの保健指導を受けられるようになっています。また、必要時には医師のサポートを受ける事もでき、医師と



(保健指導の様子)

協同して妊婦を支援していくシステムとなっています。

助産ケアルームでの妊婦健診は完全予約制であるため、待ち時間が無いのが特徴です。また、1回の健診に30分の時間をかけているため、妊娠中の不安や、からだの心配事などもサポートできます。今後は出産後の乳房ケアも行なっていきたいと考えています。ただし、医師の健診後の保健指導については、予約制ではないので待ち時間が長くなる場合もあり、今後の課題となっています。



(妊婦健診の様子)

助産ケアルームは、他施設でも開設されていますが、一般にはまだまだ知られていません。助産ケアルームが、安心した妊娠生活と出産、育児までサポートできるような場となるよう努めていきます。



## 中央病院あり方懇話会開催

平成23年6月13日(月)、第2回富士市立中央病院あり方懇話会(以下あり方懇話会)を開催いたしました。

あり方懇話会は、市民の方々からご意見・ご提言をいただき当院の施策に反映させていくために、本年3月1日に設置したものです。第1回目では当院の概要や各種計画の説明を行いました。

今回は当院が策定した改革プランにおける数値目標の達成状況などを報告し、それを基に今後の

目標や果たすべき役割などについて、委員の皆さまからご意見をいただきました。

前回よりも踏み込んだ議論を行ったことで、地域の基幹病院として求められている機能がより明確となり、その要望に応えることに当院の本務があると再認識する機会となりました。

詳細につきましては、当院のウェブサイトにてご報告いたします。



(あり方懇話会の様子)



## 節電対策

夏の電力不足に対応するため、東京電力管内では7月1日より、電気事業法第27条による電力使用制限令が発令されましたが、医療機関は制限緩和措置の対象ですので、昨年並みの電力使用が認められています。しかし、当院では富士市役所の節電計画に合わせ、昨年比5%の削減を努力目標に定め、自主的な節電対策を行っています。照明器具の一部消灯、不要な電気機器の使用の抑制など、

診療に影響が及ばない範囲で対策をとっています。

また、現時点では原則行わないとされていますが、計画停電が実施された際は自家発電で対応します。自家発電では、通常の55%程度の電力しか利用できませんので、大きな電力を必要とするMRIなどの医療機器や検査機器の一部は使用できません。通常どおりの診療を行うことは困難ですが、でき得る限りの診療を行います。

患者さまにはご迷惑をおかけしますが、ご協力よろしくをお願いします。

# 中央病院からのお知らせ

# 富士市立中央病院診療日程表

平成23年7月1日現在

診療科 (部長名)		月	火	水	木	金	備考
内科 (代謝一般内科)《藤井常宏》 (呼吸器内科)《木村哲夫》 (腎臓内科)《笠井健司》 (消化器内科・肝臓病)	初診	山中	小野	井内	高橋	塩崎	水曜日の谷口医師の診察は、午後予約のみ  木曜日の平野医師の診察は、午前予約のみ
		藤井	山城	五條	藤井	五條	
		五條		谷口	五條	山城	
		木村	木村	木村	木村		
		福井	笠井	福井	福井	笠井	
神経内科		八木	森田	高木	河野	森田	《初診は完全紹介状制》 木・金の診察は午後2時～4時、水は午前9時～11時
循環器科 (循環器内科)《三川秀文》 (心臓血管外科)《田中圭》	初診	阪本	(交替制)		山崎	富永	金曜日の富永医師の診察は、奇数週 金曜日の浦部医師の診察は、偶数週 《火曜日の初診受付は、午前10時まで》
		山崎	三川	三川	三川	三川	
		田中			浦部	阪本	
小児科《瀬川孝昭》		千葉	江間	千葉	江間	千葉	
		瀬川	瀬川	瀬川		瀬川	
		秋山		秋山	秋山	秋山	
外科《梶本徹也》	初診	(交替制)	(交替制)	(交替制)	(交替制)	(交替制)	火曜日の午前が平本医師、午後が松本医師の診察 水曜日の午前が共田医師、午後が阿部医師の診察 月曜日の※はヘルニア・下肢静脈瘤外来 木曜日の森川医師の診察は、偶数週の午後2時～4時
		小山	坂本	毛利	坂本	毛利	
		共田	平本/松本	共田/阿部	小山	熊谷	
		梶本			平本		
		(交替制)※	良元	梶本	森川	良元	
整形外科《田邊登崇》		田邊	永井	(交替制)	永井	田邊	《初診は完全紹介状制、水曜日は初診のみ》  《水曜日の初診受付は、午前9時半から午前11時まで》
		飯田	久富		久富	飯田	
			平松		平松		
脳神経外科《諸岡 暁》			秋山		山本		《水曜日は初診のみ》 火曜日の諸岡医師、木曜日の野田医師は再診のみ
		野田	諸岡	(交替制)	野田	諸岡	
形成外科《平川正彦》		平川	(交替制)	岸	平川	岸	《火曜日の初診受付は、午前10時まで》
		宮地			宮地	平川	
泌尿器科《後藤博一》		後藤	鈴木	後藤	鈴木	後藤	
産婦人科《窪田尚弘》	初診	窪田	中島	鈴木	原	乙咩	《婦人科初診は完全紹介状制》 ←婦人科再診 ←妊婦健診
		中島	原	長橋	窪田	鈴木	
		原	乙咩	窪田	鈴木	中島	
眼科《藤谷暢子》		藤谷	藤谷	藤谷	藤谷	藤谷	
		渡辺	渡辺		渡辺	渡辺	
耳鼻咽喉科《高柳博久》		石垣	高柳	(交替制)	石垣	(交替制)	金曜日は初診のみ
		吉田	(交替制)	吉田	高柳		
皮膚科《津嶋友央》		津嶋	津嶋	津嶋	津嶋	津嶋	水曜日の津嶋医師の診察は、奇数週 水曜日の青島医師の診察は、偶数週
		青島	青島	青島	青島	青島	
放射線科		(担当医)		(担当医)		(担当医)	←治療外来(初診は完全紹介予約制) ←診断外来 《治療外来の月・水曜日は午後、金曜日は午前》
		成尾	(交替制)	(交替制)	萬	成田/松井	
		竹永	竹永	竹永	竹永	竹永	
歯科口腔外科《勝山直彦》		勝山	勝山	勝山	勝山	勝山	川瀬医師・高橋医師の診察は、火曜日は第2週と第4週、木曜日は第1週と第3週
		井出	井出	井出	井出	井出	
		中川	中川	中川	中川	中川	
			川瀬/高橋		川瀬/高橋		

※都合により、内容が変更になることがあります。

## 医師の人事異動について 病院総務課 内線2217

退任日:平成23年6月30日 就任日:平成23年7月1日

診療科	退任医師名	就任医師名
外科	フジ タ アキ ヒコ 藤田 明彦	クマ ガイ ユウ 熊谷 裕
	エノ モト ヒロ ヤ 榎本 浩也	ア ベ キョウ ハイ 阿部 恭平
		マツ モト トモ 松本 倫
整形外科	アラカワ ショウタロウ 荒川 翔太郎	ヒラ マツ トモ ヒロ 平松 智裕
産婦人科	ヤマ サキ トモ コ 山崎 智子	

## 専門外来の開設について

7月1日より当院外科外来において下記専門外来を開設します。

### ①呼吸器外科外来

対応疾患：原発性または転移性肺がん・気胸・肺気腫・膿胸・縦隔腫瘍など

日 時：毎月第2・4木曜日 午後2時～4時

担 当：森川利昭医師

### ②ヘルニア・下肢静脈瘤外来

対応疾患：そけいヘルニア・太腿ヘルニア・腹壁ヘルニア・下肢静脈瘤

日 時：毎週月曜日 午後1時30分～3時30分

担 当：外科医師による交代制

## 代謝一般内科

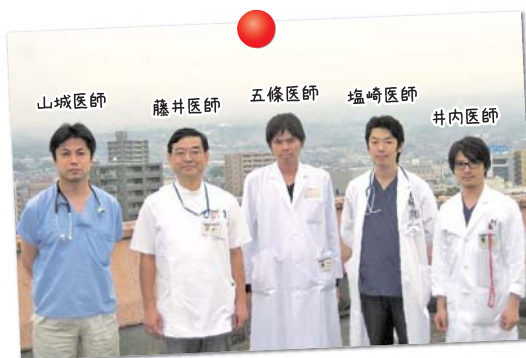
# 各科紹介

代謝一般内科の専門分野は、血液・腫瘍内科と糖尿病代謝内分泌内科です。所属医師は5名で内科総合専門医が3名おり、そのうち専門分野で血液専門医、糖尿病専門医を有する者が各々1名ずつです。

血液・腫瘍内科の外来を受診されている患者さまの総数は約700名です。また、内科病棟には治療設備として無菌室を3床有しています。血液疾患での治療薬の進歩は凄まじく毎年新薬が出現しています。たとえば慢性骨髄性白血病は以前まで不治の病でしたが、今は入院も必要なく外来での内服治療のみで完治できる時代です。しかし、これらの新薬はどれも高価で、治療薬費は増加の一途である事が問題です。

糖尿病代謝内分泌内科の外来を受診されている糖尿病・甲状腺疾患の患者さまの総数は約1500名です。糖尿病は生活習慣病の代表的疾患で近年患者数が急増しており、研究や新薬の開発が目覚

ましい分野です。最近インクレチンと称される新しい糖尿病治療薬が登場し、当科でも積極的に使用しています。糖尿病はさまざまな合併症を有する事が多く腎臓内科、循環器科、眼科等と連携しながら効率的な診療を心がけています。



(代謝一般内科スタッフ)

## 病棟紹介 ~5B病棟~

5B病棟は、主に消化器疾患の手術の方や、胃カメラ、大腸鏡等の内視鏡検査、化学療法を受ける方が入院されている外科病棟です。ベッド数は54床あり、医師10名・看護師32名・医療補助員3名、合計45名の大所帯です。また、2010年の年間外科手術件数は679件で、そのうち緊急手術は283件となっています。

救急外来や外科外来からの緊急入院も多く、手術や検査に対する患者さま・ご家族さまの不安を少しでも軽減できるように、より良い看護を提供していくことを目標にしています。手術後の早期歩行訓練は早期回復に繋がるため、医師や看護師から勧めたり、手術で人工肛門を造った患者さまには、皮膚・排泄ケアの認定ナースが患者さまと今後の生活を共に考え、丁寧に説明や指導を行っています。また、近隣の診療所や病院などからの紹介で胃瘻(胃に直接栄養を送るための入口)を作るために入院されている方もいるので、今後は紹介された診療所や病院などとの連携の強化にも努めていきたいと考えています。

さらに、現在では入院患者さまの34.3%に使用されているクリニカルパス(手術や検査がよりわか



(5B病棟スタッフ)

り易く、安心して入院生活を送るための入院から退院までの計画書)の活用及び改訂も進めています。

平成23年度の病棟の目標は「5B病棟に入院して良かったと言われる看護を行う」とし、病棟全体で外科看護について学習をすると共に、5B病棟の看護を振り返るために検討会を行っています。

毎年、新人ナースが3人程度病棟に配属され、病棟全体で新たな気持ちで患者さまの看護を行っています。これからも患者さまが安心して入院生活を送り、不安なくご自宅に帰ることができるよう看護を行っていきたくと思います。



## 総合相談センター ～こんな相談を受け付けています～ 内線2046

- 看護相談(がん相談含む)・よろず相談  
..... 患者さまとご家族さまが抱える様々な問題を共に考え、解決していくお手伝いをします。病気や治療のこと、退院後の生活に対する不安など、専任の看護師がご相談に応じます。
- 医療安全相談..... 受けた医療に関して疑問や不安があるが医師に相談しづらい事など、専任のリスクマネージャーがご相談に応じます。
- 医療福祉相談(健診含む)..... 患者さまの介護保険の利用、医療費などの心配、退院後の生活の準備、転院先案内など、医療ソーシャルワーカーがご相談に応じます。(医療福祉相談のみ 内線2918)

受付時間及び相談時間 月曜日～金曜日 8:30～16:30 ※場所は1階正面玄関入って、すぐ右手です。お気軽にお声をおかけください。

### その他の病院内の相談は・・・

- お薬相談 相談室(お薬渡し口隣り)  
月～金 8:30～17:00  
お問い合わせ:薬剤科 内線2126
- 栄養相談 栄養相談室(2階循環器科外来隣り)  
月～金※予約制です。  
お問い合わせ:栄養科 内線2146
- 検査に関する相談・血糖自己測定器の説明 中央検査相談室(2階)  
月～金 8:30～17:00  
お問い合わせ:臨床検査科 内線2267
- フットケア相談(糖尿病患者さまの足のケア) 内科外来(2階)  
第2・第4水・木曜 13:30～15:30  
お問い合わせ:内科外来 内線2285
- 医療放射線被ばく相談 放射線科外来(1階)  
火・木曜日 午後  
お問い合わせ:中央放射線科 内線2153



### 各種教室の紹介

患者さまとご家族さまを対象とした各種教室を開催しています。開催日・講義内容については中央病院にお問い合わせの上、お気軽にご参加ください。開催場所は、各教室いずれも中央病院2階大会議室です。

- 腎臓病教室 お問い合わせ:栄養科 内線2146  
日時:毎月第3火曜日 15:00～16:00
- ファミリークラス お問い合わせ:産婦人科外来 内線2337  
日時:毎月3回 13:00～15:00

### 出前講座の紹介

当院職員を学校・会社・町内会の集まり・医療施設等へ派遣します。講座は全部で61メニュー、全て無料で実施します。ぜひ、ご利用ください。詳細は当院ウェブサイトまで

<http://fujishi.jp/~byoin/>  
お問い合わせ:病院経営課 内線2221

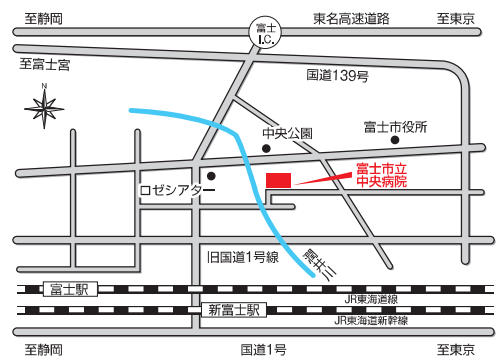
## 富士市立中央病院 Fuji City General Hospital

～平成23年度病院指針～「あたたかい心配りが第一歩」

〒417-8567 静岡県富士市高島町50  
電話:0545-52-1131 FAX:0545-51-7077  
E-mail: byoin@div.city.fuji.shizuoka.jp  
ウェブサイト: <http://fujishi.jp/~byoin/>

**アクセス** 富士ICより 車で10分  
東海道本線富士駅より タクシーまたはバスで10分  
東海道新幹線新富士駅より タクシーで10分

○病院だよりに関するご意見ご要望は病院経営課へお願いします。  
電話:0545-52-1131 内線:2221・2222 E-mail:ch-keiei@div.city.fuji.shizuoka.jp



### 24時間対応の介護サービス

NPO法人望月学園

## サポート くすのき

家族介護・整理掃除・家事代行・身体介護など

相談室フリーダイヤル

**0120-81-8721**

### 安心の証! 認定補聴器 技能者在籍 のお店です



富士宮補聴器センター 夫婦店 (富士市石坂)

### 間違いない補聴器選びをお約束

**安心の貸出しシステム**  
実生活での聞こえの効果を確認して頂くよう補聴器の貸出しを致します。

**ご購入後の再調整まで**  
補聴器は生活環境に応じた再調整が大切です。万全のサービスでお待ちしております。

**ガンパロウ日本!!**  
補聴器1台のご購入につきワンコイン(500円)を当店負担にて東日本大震災の被災地へ寄付させていただきます。

富士市石坂 B5-16  
TEL・FAX 0545-53-2365

営業時間 9:00～17:00  
日・祝日定休 駐車場有



広告に関する一切の責任は広告主に帰属します。また、富士市が推奨するものではありません。

「病院だより第14号(10月20日発行)」に広告を掲載しませんか。お問い合わせ:病院経営課 内線2221・2222